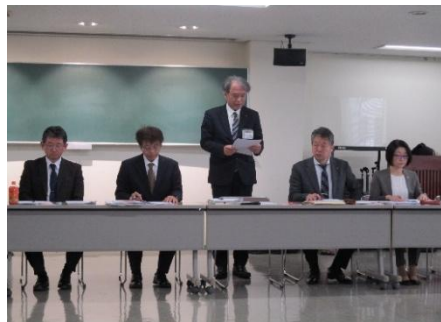


令和7年度 第9回学校経営研修会 R7.2.18

2月18日（水）に教育記念館において、標記の研修会が行われました。開会の挨拶では、石田 和義 県小学校会会長より、以下の話がありました。

目覚ましく変化する世の中、校長は何を見据えていかなばならないのか、見据えずして改革はない。教育の目的と教員に求められる普遍的資質・能力を確認することが大切であると話されました。「公立の小学校等の校長及び教員としての資質向上に関する指標の策定に関する指針」の「指標」が変わる。どのキャリアも普遍的な資質を見据え、確認することが必要である。校長として、まず心理的安全性を確保し、普遍的な資質を見据えていくことでした。



続いて、カリキュラム・マネジメントについては、子供理解に基づき、主体的・対話的で深い学びに向けて授業改善すべきであり、校長には、教育課程編成力の向上が求められる。多様な子供たちの「深い学び」を確かなものにしていくことを話されました。

また、今日的な教育課題が多々求められる中で、子供の発達への支援として、キーワードとなるのは「多様性の包摂」であること、小学校におけるキャリア教育の充実、不登校への対応、地域において取り組んでいく課題についても話されました。

最後に、今年度の卒業生は令和2年度に入学し、すぐに新型コロナウイルス感染症で休業になった学年であった。さらに、令和6年1月に能登半島地震を経験している。これらの困難に、教職員は子供たちをどのように支えていくか、思い悩みながら教育活動を進めてきた。教育とは、教育を受ける者の人格を育てるものである。卒業式では、子供たちに希望を語ってやりたいと思う、と締めくくられました。

令和7年度最後の学校経営研修会となりました。今年度をもってご退職、役職定年を迎えられる役員、理事の方々へ、山下副会長からこれまでのご功績と感謝の言葉がありました。皆様の今後のますますのご健勝を祈念申し上げます。

